

デジタルの力で愛媛県の動物園・水族館の新たなファンを創出し、 規格外の農産物を動物の食事に活用することで、生産者収益の向上を目指す

採択事業者名

株式会社OHANA

コンソーシアム構成員

虹の森公園おさかな館 | 愛媛県立とべ動物園 | 株式会社PENTAFARM | 株式会社ミヤモトオレンジガーデン | 株式会社宇和島プロジェクト

勉強会の実施概要

勉強会の目的	本事業の進捗状況や成果を愛媛県内の生産者さんに共有し、新規協力先としての参画に対する興味関心を高めることで、県内の横展開を図るため。
勉強会の当初のゴール想定と結果	愛媛県のアスパラガス、イチジク、河内晩柑、桑の葉の生産者さんを招待し、飼育員さんと株式会社PENTAFARMの事例もご紹介することでオペレーションへの理解を深めて頂くという想定で、結果は全事業者にご参加頂いての開催となった。
参加者	株式会社PENTAFARMと愛知県の日本モンキーセンター同席の下、愛媛県内の生産者4事業者にご参加頂いた。
協議アジェンダ	事業概要から始まり、生産者さん視点、飼育員さん視点での発送や受け取り時の改善点や気付きについての意見交換を行った。また、参加生産者の農産品ごとに向けた梱包・発送時の注意点や工夫すべきポイント等についても質疑応答が活発に行われた。
データに基づく協議ポイントの整理	農産物の梱包・発送時の注意点や工夫すべきポイント、どれくらいの品質までの規格外品であれば給餌可能であるのか、他に活用できる部位はあるか？(廃棄していた枝や茎の部分も活用できないかというご相談があった)等、データ以上に生産者さんや飼育員さんの実体験に基づいての協議が行われた。
主なデータ項目	農産物の梱包・発送時の注意点や工夫すべきポイント、どれくらいの品質までの規格外品であれば給餌可能であるのか等、サービス特性上、データよりも実体験ベースでの協議となった。
協議におけるガイドライン(含む具体例)	「規格外」でも傷み始めている農産品は対象外で、形や大きさが不揃いで加工用に使っている品質のものを生産者さんの目利きで選定いただく必要があるとお伝えした。さらに発送時には、傷みの早い順に箱に優先順位を書いてもらえるのと給餌の際に助かるなど、飼育員さんと生産者さんの間で建設的な意見交換が行われた。
「実装成果」実現に向けた示唆/考察	今後の春から夏にかけては配送時に傷みやよくなるため、冷蔵/冷凍配送にするなど配慮していきたい。また、配送料を抑える工夫が必要になるため、配送会社との付き合いがある生産者さんを優先的に開拓する必要がある。



データ活用・協議の具体例

重要指標例	<ul style="list-style-type: none"> • どれだけの期間/工数で動物園・水族館へ配送可能か(選定と梱包時間の確保、送料を抑える工夫) • 動物園・水族館のニーズや動物たちの嗜好に合わせた農産物の確保と鮮度を保った状態での配送 		
	実装前	実装後	
	データ取得	<ul style="list-style-type: none"> • 見た目が不揃いな農産品はコストをかけて二次加工しているが、在庫リスクを抱えることや、商品営業に手間がかかってしまう • 二次加工以外では解決策を見出だせていない状況 	<ul style="list-style-type: none"> • 動物の食事として、加工なく生のままで販売することができるようになり新規販路開拓と収益性も向上する仕組みに
	データ活用	<ul style="list-style-type: none"> • 同上 	<ul style="list-style-type: none"> • 同上
実行	<ul style="list-style-type: none"> • 動物園・水族館とのコネクションや販路を持たない • 栽培している農産品(愛媛県産ブランド)について知ってもらえる機会があまりない 	<ul style="list-style-type: none"> • 飼育員さんの意見もヒアリングしながら、動物たちの嗜好性やそれぞれの動物園・水族館ごとのニーズに合わせた形での梱包・配送方法を確立した • 生産者紹介の記事を作成することで、愛媛県産ブランドを全国のユーザーに知ってもらえる機会を創出 	
協議	<ul style="list-style-type: none"> • 日々の業務が多忙なこともあり、地域の生産者同士または県外の視察研修以外での情報交換以外はなかなか機会はない 	<ul style="list-style-type: none"> • 事業でできたコネクションやサプライチェーンに基づいたノウハウ共有や意見交換を実現 	

データ活用・協議による成果

生産者さんと飼育員さんとの協議を経て、これまで二次加工もできず廃棄していた「アスパラの茎部分」と、特に活用方法を見出すことが出来なかった「桑の枝」について勉強会で飼育員さんからニーズがあり今後テストを経て、動物たちが食べればメニューとして追加予定です。

